

独立行政法人 労働者健康安全機構 釧路ろうさい病院

地域医療連携総合センターだより

I. 緩和ケア病棟にかかわる医療チームの紹介

II. 医師異動情報

発行: 令和 3 年 7 月 釧路労災病院地域医療連携総合センター


 理念: 最新の知識と技術に基づき、良質で信頼される医療を実践します。

I. 緩和ケア病棟にかかわる医療チームの紹介 (第一回目)

今回より来年開設される「緩和ケア病棟」にかかわる医療チームを 4 回にわたり、ご紹介いたします。



「身近に感じる緩和ケア」をめざし、随時、緩和ケア病棟に関する情報発信をいたしますので、ぜひご覧ください。

また、緩和ケアに関する「無料出前講座」(Web も OK) も実施していますので、皆さまの施設でスタッフ研修などの機会がありましたら、お気軽に地域医療連携総合センターまでご連絡願います。

〈次回は看護部・リハビリテーション部を予定しています〉

歯科口腔外科の取り組み・・歯科口腔外科第二部長 角 伸博

この度当院では、来年春に「緩和ケア病棟」を開設することとなりました。緩和ケア病棟の運営にはチーム医療が必須であり、私たち歯科口腔外科（歯科医師・歯科衛生士）がどのように患者さんと関わっていくのか、ご紹介させていただきます。



当院が開設する緩和ケア病棟は、多くの方が持つであろう終末期の患者さんが死ぬまでの時間を過ごす場所というイメージから一歩進んで、がん患者さんが“生きる”場所を作ることを目指しています。

最後まで口から食べることを可能にするためには、私たちが担当する口腔機能が大きく関わってきます。緩和ケア病棟を利用する患者さんが抱える口腔内の問題には以下のようなものがあります。

- ①口腔乾燥：唾液分泌量の低下による口腔粘膜の乾燥です。口渇感が強く、多くの患者さんにとって不快な症状です。
- ②口内炎：口腔乾燥や易感染状態、低栄養によって生じます。その大きさやできた場所によっては食事摂取に影響が出ることもあります。
- ③口腔カンジダ症：全身状態の悪化やステロイドの使用によって口腔内のカンジダ菌が病的に増加することがあり、口の中がピリピリ痛むなどの症状が出ます。
- ④義歯不適合：顎の骨が痩せたり、バネがかかっている歯が動揺したりすると義歯（入れ歯）が不安定になります。
- ⑤摂食・嚥下障害：全身状態の悪化や意識レベルの低下、口腔乾燥や義歯の不適合、う蝕や歯周炎などが原因で起こります。

＜対応方法＞

- ①口腔乾燥：対症的な対応が中心です。具体的には口腔保湿剤を用いながら口腔清掃を行い、直接口腔粘膜を湿潤させます。現在非常に多くの種類の口腔保湿剤が市販されてきています。

- ②口内炎：種類にもよりますが、軟膏の塗布や含嗽で対応します。症状によっては口腔粘膜被覆剤（口内炎の上に膜を作る：薬効成分はない）である「エピシル®」を用いて対応することもあります。
- ③口腔カンジダ症：口腔内の保清・保湿及び抗真菌薬を用いて対応します。義歯の清掃不良が原因となることもあります。
- ④義歯不適合：義歯を新製するのは難しいため、調整や修理等での対応が主となります。また、義歯を清潔に保つことがカンジダ症の予防にもつながります。
- ⑤摂食・嚥下障害：最期まで口から食べるという人間の尊厳を守るためにも言語聴覚士や管理栄養士と協力して、リハビリや食形態の工夫、口腔ケアを行っていきます。

緩和ケア病棟設立に先立ち当院では、移動可能な歯科用ユニットを購入しました。これにより、わざわざ歯科口腔外科外来に移動しなくても、入院しているお部屋で歯石除去や歯の尖っている部分の除去といった簡単な歯科治療が可能となりました。近年は口腔ケア用の製品も充実してきており、患者さんの口腔内のトラブルにも幅広く対応できるようになってきています。緩和ケア病棟を利用して口腔内のことでお悩みのことがありましたら、いつでも気軽に相談してください。

栄養管理室の取り組み・・栄養管理室 主任 山田 千尋

当院では現在緩和ケアチームの一員として、管理栄養士が週 1 回の緩和ケアカンファレンスに参加し、患者様の状態を把握し、必要な際には病室へ伺い患者様と直接相談することで食事内容を調整するなど個別の対応を行っております。また、在宅で過ごされる際の食事の取り方に関して患者様やご家族へ相談を行っております。



緩和ケアは治す医療から支える医療への移行の実践であると言われています。緩和ケアにおける栄養治療の目的は栄養状態の維持、改善だけではなく、残された時間のQOLを保つために「口から食べる喜び」を目指すことにあります。そのなかで栄養士は食・栄養について提案することで患者様の全身状態やQOLの改善に寄与すること、そのために知識を習得することが求められています。緩和ケア・終末期ケアにおける食・栄養のケアはこれまであまり取り上げられなかった分野あり、今後新しい栄養管理を確立していく必要があります。

当院での食事の提供も、既存の食事の対応のみでは難しいと考えており、患者様やご家族の食に対する問題に対応できる内容を現在検討しております。

医師や看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、臨床心理判定員など多職種の医療スタッフとの情報交換、歯科医師や歯科衛生士との口腔内の問題に対する食事の検討など多職種での連携により、限られた、人員や資源の中でいまより少しでも患者様が「食べられた」と喜びを感じられるように緩和ケア病棟開設に向け準備を進めていきたいと思っております。



II. 医師異動情報

- 退職：令和3年6月 6日付け 脳神経外科副部長 藤原 史明
- 退職：令和3年7月31日付け 泌尿器科医師 川代 啓太
- 採用：令和3年8月 1日付け 泌尿器科副部長 山本 祥太（やまもと しょうた）
得意分野：泌尿器科一般
資格：日本泌尿器科専門医
（ひとこと）

釧路の医療に貢献できるようがんばります。